

平成24年度
北海道において実施する農業農村整備事業等補助事業に関する技術検討会
議 事 概 要

1. 日 時 平成25年2月26日（火曜日）13時30分～17時20分

2. 場 所 農林水産省 農村振興局 第1会議室

3. 出席者 別添のとおり

4. 議事概要

(1) 検討会の運営等について

- ・ 技術検討会の委員長として、長澤徹明委員を選出。
- ・ 検討会配布資料については、公表とする。
- ・ 議事録については、発言者名を明記の上、公表とする。

(2) 農業農村整備事業等補助事業の事後評価結果（案）について

事務局より、配布資料に基づき農業農村整備事業等補助事業の事後評価の進め方、農業農村整備事業等事後評価地区別結果書（案）について説明、質疑等を行った。委員からは、評価の視点として次のような意見があった。

- ・ ほ場の大区画化・担い手への農地の集積等による農業機械の大型化、共同利用による農作業の効率化という事業目的に応じた効果に加え、導入された乾田直播などの技術は、二酸化炭素の発生抑制など地球温暖化防止にも寄与するものであり、この点についても評価されてはどうか。（経営体育成基盤整備事業）
- ・ 区画整理に併せ沈砂池を設置したことにより、降雨時の周辺小河川への土砂流出が抑制され、自然環境への負荷軽減に繋がっているという点も、事後評価結果に盛り込んで良いのではないのか。（畑地帯総合整備事業）
- ・ 牧草の単収が、事業実施前よりも事業実施後の評価時点で低下している点について、その要因の整理が必要ではないか。（農道整備事業）
- ・ 事業実施による自然環境の変化に関する項目で、「家畜排せつ物の適正な管理による資源循環型酪農が確立されている。」とあるが、堆肥化の推進により、例えば春に施肥が行われるようになったことなど改善された効果について、適切に評価する必要があるのではないか。（畜産環境総合整備事業）
- ・ 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化の各項目で、事業実施前と計画の数値が同一の項目又は地区があるが、事業の効果を見込んで計画の数値が設定されていることを踏まえれば数値が同一というのは考えにくいので、確認が必要ではないか。

(3) その他

事後評価地区別結果書に記載する「第三者の意見」については、委員長が（案）を作成し、各委員に諮り合議の上で取りまとめを行うこととする。

(別添)

北海道において実施する農業農村整備事業等
補助事業に関する技術検討会委員名簿

大熊	久美子	NPO法人北海道食の自給ネットワーク 事務局長
岡村	俊邦	北海道工業大学 空間創造学部 教授
長澤	徹明	北海道大学 名誉教授
中原	准一	酪農学園大学 特任教授
橋本	正雄	北海道農業会議 事務局長
波多野	隆介	北海道大学大学院 農学研究院 教授

(五十音順、敬称略)